

一般社団法人日本CFO協会2025年度事業報告書

自2025年4月1日 至2026年3月31日

1. 事業報告

2025年度は、中東・ウクライナ情勢の長期化に加え、米国の通商政策をめぐる不確実性が世界経済に波及するなか、企業のCFOやコーポレート幹部にとってかつてないほどの判断力と対応速度が求められた年度となりました。

グローバルな資本市場では日本株への関心が高まり株式市場は堅調に推移した一方、アクティビストの活動がより一層活発化し、株主との建設的な対話やIR戦略の高度化が喫緊の経営課題として浮上しました。また、不透明な事業環境のなかで先行きを見通す力への期待が高まり、FP&A機能の強化と経営管理基盤の整備に取り組む企業が急増しました。

こうした環境変化に加え、生成AIの急速な普及により汎用的な専門知識はAIが代替しうる時代となり、CFOや財務幹部に求められる価値は、情報や知識の習得から、経営視点に立った判断力・経験・哲学の深化へと大きくシフトしています。また、オンラインによる情報提供が氾濫するなかにあって、当協会は一方的な知識提供に留まらず、会員の皆様が相互に経験や価値観を共有し、対話を通じて「判断の軸」を磨き合えるコミュニティとしての機能強化を一層推進しました。

より重要な役割を担うCFO機能の強化を支援させていただくべく、当期も会員の皆様の関心の高いテーマを取り上げ様々なサービスをご提供して参りました。

具体的な活動内容は以下の通りです。

(1) 教育・啓蒙活動

- ・会員に対する情報提供の場として開催しているCFOセミナーをオンラインにて13回開催しました。
- ・FP&Aの普及啓蒙の観点から開催しているFP&Aセミナーをオンラインにて9回開催しました。

CFOセミナー、FP&Aセミナーの詳細はこちらをご参照ください。

https://www.cfo.jp/seminar/cfoseminar_archives/

- ・啓蒙活動の観点より会員の方以外にも対象を拡大し広くご案内を行ったイベントとして、当期も以下のイベントを開催しました。

[CFO X!!25](#) (9月9日、10日、11日 オンライン開催)

[CFOフォーラム・ジャパン2025](#) (12月11日、12日)

「Beyond Finance – CFOがリードする企業変革」 （オンライン開催）

- ・ 創立25周年記念講演会 & レセプションを開催しました。
[NEXUS 25](#)— 2500年の叡智、25年の実践、2050年への覚醒
- ・ 次世代のCFOを担う方々を対象とした勉強会「[次世代CFO会議（Next CFO Society）](#)」を当期は合宿形式（一泊二日）で開催しました。
- ・ 法人会員を対象にFP&A機能の実装・強化に向けた取り組みを共有する「[FP&A研究会](#)」を2025年7月から2026年3月にかけて全8回（オンライン6回・集合形式2回）開催しました。
- ・ 若手ファイナンス人材を育成する「[NEXT Finance Leaders Program](#)」、3大リーダーシップパワースキルを実践的に学ぶ「[3Cパワースキル講座](#)」、トレジャリーマネジメントの知見を共有する「[トレジャリーエクセレンス・コミュニティ](#)」を開催しました。
- ・ 寄付講座を以下の通り2講座開催しました。

多摩大学寄付講座	「 ベンチャーCFO講座 」
東京都立大学寄付講座	「経営学特別講義<事業リスクマネジメント>」
- ・ オンライン情報誌「[CFOFORUM](#)」を毎月発行しました。

（２） 資格・検定活動

- ・ 経済産業省経理・財務人材育成事業経理・財務スキル検定（FASS検定）の受験者数は5,318人となり、受験者は累計95,474人になりました。
- ・ 専門性の高い実務領域のスキルを可視化するための連結決算実務検定の受験者は79人となり、受験者数は累計で675人になりました。
- ・ 経営企画スキル検定（FP&A）の受験者は403人となり、受験者数は累計で1,781人になりました。
- ・ 当期末時点における資格認定者数は、ジェネラルCFOが300人、グローバルCFOが171人、プロフェッショナルCFOが285人、スタンダードCFOが256人となり、CFO資格認定者は合計で1,012人となりました。

（３） 調査・研究活動

- ・ 経営・財務分野のさまざまなベンチマーク情報を提供する目的で「財務マネジメント・サーベイ」を以下のテーマにて4回実施しました。

「SSBJ基準の開示対応に関する意識・実態調査」（結果未公表）

「[AI時代のCFO機能再構築に向けて](#)」

「[戦略的CFO： グローバル市場の不確実性を好機に変える](#)」

「[経営管理部門のDX推進に向けた実態と課題2025](#)」

（４） 会員数

- ・ 個人会員の新規入会者数148人、法人会員の新規入会社数22社で、当期末の会員数は個人会員が1,854人、法人会員は270社となりました。

（５） 損益の状況

- ・ 売上高は、入会金収入4,370千円、会費収入76,544千円、受験料収入45,202千円が主な収入を占め、134,571千円となりました。
- ・ 費用は、創立25周年記念事業に関するイベント費用26,706千円を含めフォーラム・セミナー費が32,044千円と嵩み、広報活動費31,526千円、編集費10,397千円が主な費用を占め、160,786千円となりました。
- ・ 営業利益は▲25,897千円、当期純利益は▲25,967千円となりました。

2. 2026年度の活動

（１） 活動計画

2026年度は、会員企業のコーポレート組織としての力を高めることを中心に据え、これまでの個人向けの学びや情報提供の枠を超えた、法人・組織単位での価値提供を強化してまいります。

具体的には、CFO部門内のコミュニケーション活性化や、他社CFO部門との状況共有・意見交換を日常的に行える法人コミュニティサイトを新たにご提供します。会員企業同士が自発的につながり、課題や知見を持ち寄って対話できる場を整備することで、個社の枠を超えた集合知の形成を目指します。

また、AIを活用してCXOクラスの経営者が積み重ねてきた経営哲学や実体験から生まれた知恵を学ぶことのできる新たな教育プログラムを提供します。汎用的な知識の習得にとどまらず、判断の軸となる経験知・体験知を追体験できるコンテンツとして設計し、次世代のCFO・コーポレート幹部の育成に貢献してまいります。

こうした新機能・新プログラムに加え、急速な発展を見せる生成AIの活用を前提としたCFO組織の在り方の再構築、不透明な将来予測を支援する経営管理基盤の強化とFP&A機能の実装、資格認定・教育・調査研究の各事業においても引き続き充実を図ります。

会員の皆様が相互に交流し意見を交わせる場の拡充とあわせて、期待にお応えするサービスをご提供してまいります。

（２） 事業予算

2026年度は、入会金収入6,200千円、会費収入76,121千円、受験料収入55,000千円など、売上高は146,521千円を予定しています。費用は137,942千円を予定しており、税引前利益は8,579千円を予定しています。

以 上